

令和3年度青森県地球温暖化対策推進協議会 各委員コメントの概要及び対応の方向性

日 時：令和3年8月6日（金）
場 所：新町キューブ3階会議室

委員名	発言コメント概要
神本会長	<ul style="list-style-type: none"> ・直ぐ先の2030年に向けては、既存技術をかなり活用しなくてはいけない。<u>いろんな技術・政策手段等を総動員する。</u> ・<u>お金やモノ、エネルギー等を地域で循環させることにより地域の活性化を図る。</u>また、各主体の頑張り、それぞれの連携が必要。 ・行程表・ロードマップが必要。具体的にどうやって進めていくかがポイント。各自治体も自分たちがどうするのかという<u>ことを行程表に落とし込んでいかなければいけない。</u>
武山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化対策についても県民の協力が必要。県民に求めたいことを行動計画のような形で提言することが必要ではないか。 ・<u>ゼロエネルギービルディング（ZEB）</u>について、公共建築物で進め、その都度見学会を行うなど情報発信に努めることで、<u>民間に波及させていく必要がある。</u> ・（県のアセスの委員会に関わった経緯があり）風力発電のアセスを簡略化するなど、県として風力発電なり、温暖化対策を推進していく必要がある。
大黒委員	<ul style="list-style-type: none"> ・（エネルギー管理士研修の講師経験から）<u>県の施策にも人材育成という点が重要。</u> ・例えば、<u>エネルギー管理士の資格取得に関する支援を行う、あるいは企業に対してエネルギー管理士資格の有資格者を雇用した場合に何らかの支援行うなど。</u>こういった草の根的な運動を進めていくことも省エネルギーにつながっていくのではないか。
三上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・平年値の更新があったが、地球温暖化が大きな原因と思われる点が見えている。 ・<u>このままではIPCCの最悪シナリオに近づいてしまう。今からしっかりと対策をしないといけない。</u>
清藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>農業分野の省力・低コストの取組は温暖化ガスの抑制につながる。今ある技術を別の切り口で脱炭素社会につなげていけるのではないか。</u> ・メタンや窒素などの削減対策をして生産された農産物を売っていく。その中で（対策や技術を）広めていければ。広めるために、<u>連携しながら進めたい。</u>
葛西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで省エネ、再エネといった観点でのセミナーなど、狭い意味での啓発活動が主なものだった。改めて温室効果ガス削減につながるようなトータル的な啓発が必要と認識した。 ・<u>経常のコストアップは企業活動の中で躊躇することになってしまう。トータルとして経常プラスになるようなシナリオを描けるように、インセンティブとなるような取組につなげていければよい。</u>

委員名	発言コメント概要
松野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な政策・施策について、国や県、個人がそれぞれやらなければならないことを明確にして取組を進めて行かなければならない。 ・ 世界各国の対策の成功事例から学ぶことも大事。 ・ <u>一人ひとりが連携しながら本気で取り組む、そのために何をすべきか、身近に私たちが取り組めることを示してもらえれば。</u>世界中が取り組めば良い方向に向かうのではないか。
三浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>トラック業界では、EC市場の拡大、積載効率が問題になっている。</u> ・ <u>トラックの事業としては、積載効果を上げる、宅配の再配達を減らすことが課題。CO2削減に繋がるもの。</u> ・ <u>ドライバーのエコドライブはもちろん、いわゆる共同配送を通じて宅配がスムーズにできるようにしていければ。</u>
近藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>建築物の断熱性能の向上が進められてきているが、コストの上昇になる。また、新築だけでなく、既存住宅の対応をしっかりと考えていかなければいけない。</u> ・ <u>寒波と停電により設備機器が故障することもあり、機械に頼り過ぎない生活も考える必要がある。</u> ・ (温暖化対策は) <u>建築だけではなく健康とも繋がっている。例えば、健康であれば設定温度を下げられるなど、エネルギーを使わない生活ができるのでは。</u> ・ <u>物が入らない、高くなっているなどの状況があり、あるものをちゃんと利用する、新しく作らなくても見つけていく、ということも大事。</u>
渋谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>環境教育が重要。新しい世代が30年後、2050年に生活をしているということを考えると、人づくりをしっかりと進めていくことが大事。</u> ・ (R3年10月に開催される) <u>ESDフォーラムの大きなテーマも人づくり。北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産になったことを踏まえて、脱炭素に向けても、縄文人から学ぶという大きなテーマを我々持っていければ楽しいのではないか。</u>
今委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>家庭部門の対策では、省エネ対策は設備費用の負担がすごく重い。節エネ対策になってしまう。</u> ・ <u>経済的に余裕のある人だけ設備投資ができる状態ではダメ。省エネ対策の設備をどうやったら皆に本当に行きわたらせることができるのか、そういう強いリーダーシップが必要な時になっている。</u> ・ <u>地球温暖化対策をしっかりと進めるには、一般の人も官公庁も企業側も、皆で連携する、危機感を共有することが大事。</u> ・ <u>設備投資だけでなく、(グリーンカーテンなど)自然のものを取り入れる、脱炭素の取組は心地よいものと実感できるように進めてほしい。</u>

【各委員意見のポイント及び対応の方向性】

各委員意見のポイント		対応の方向性
<p>◆ 地域や経済の活性化について (意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お金やモノ、エネルギーを地域で循環させる。 ・ 企業活動において経常利益アップにつながるようにする。 など 	⇒	<p>地球温暖化対策は、地域課題を解決し、地域の魅力と質を向上させる地方創生に貢献する「地域脱炭素」を進めることが重要とされており、「第6章 目指す姿の実現に向けて」において記載していく。</p>
<p>◆ 具体的な取組・施策について (意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今からしっかりとした対策が必要。いろんな技術・政策手段等を総動員する。 ・ ZEB化などは公共建築物から民間へ波及させていく。 ・ 住宅の断熱は、既存住宅の対応も考えていく。 ・ 農業分野の省力・低コスト化を脱炭素化へつなげていく。 ・ 省エネ設備投資への負担が大きい。省エネ設備を広く行き渡らせることが必要。 ・ EC市場の拡大や再配達も課題となっている。 ・ 様々な点でライフスタイルの変容が必要。 <p style="text-align: right;">など</p>	⇒	<p>「第6章 目指す姿の実現に向けて」において取組の方向性を記載するとともに、具体的な取組内容については、施策企画段階で検討する。</p>
<p>◆ 人材育成、環境教育について (意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門人材（エネルギー管理士等）の育成、各企業への配置を進める。 ・ 将来の取組を支える人づくりを進める。 <p style="text-align: right;">など</p>		
<p>◆ 推進体制について (意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球温暖化対策には県民の協力、各主体の頑張り、連携が必要。 ・ 県民、企業、自治体など、皆で危機感を共有し取組を進める必要がある。 ・ 国や県、個人それぞれが連携しながら本気で取り組むべき。 <p style="text-align: right;">など</p>	⇒	<p>県民、事業者、民間団体等で構成する「もったいない・あおり県民運動推進会議」により、各主体が連携した取組を進めており、「第7章 計画の推進体制」において記載していく。</p>

【青森県地球温暖化対策推進協議会 委員名簿】（R3.8.6時点）

区分	番号	氏名	役職
学識経験者	1	神本 正行	国立大学法人 弘前大学 特別顧問（専門：新エネルギー）
	2	武山 泰	学校法人 八戸工業大学 教授（専門：公共交通・まちづくり）
	3	大黒 正敏	学校法人 八戸工業大学 教授（専門：省エネルギー）
	4	工藤 雅世	青森大学 教授（専門：社会学）
	5	三上 晃司	気象庁 青森地方气象台 調査官（専門：気象）
	6	清藤 文仁	地方独立行政法人青森県産業技術センター理事（農林総合研究所長） （専門：農林）
産業界	7	葛西 崇	青森県商工会議所連合会専務理事（産業部門、業務その他部門）
	8	松野 ミツ	青森県中小企業団体中央会レディース会会長（産業部門、業務その他部門）
	9	三浦 政光	公益社団法人青森県トラック協会専務理事（運輸部門）
	10	近藤 容子	一般社団法人青森県建築士会理事（家庭部門）
	11	佐々木 陽子	東北電力㈱青森支店部長（企画・環境・人財担当）
県民・市民団体	12	林 博美	特定非営利活動法人青森県消費者協会 業務部次長
	13	渋谷 拓弥	青森県地球温暖化防止活動推進センター長
	14	今 京子	青森県地球温暖化防止活動推進員